

辺野古土砂北九州

発行…2025年12月号・No.66



先月11月28日、辺野古の大浦湾で本格的な土砂投入が開始されました(埋め立て開始は2018年12月)。あれから7年が経とうとしていますが、新基地の完成は全く見通しが立っていません。また、大浦湾では、半年ほど軟弱地盤の改良工事が中断していましたが、地盤改良船は11月25日に3隻、28日には5隻が大浦湾で確認されました。ただ、この時点では、砂杭を打ち込んでいる様子は見られなかったそうです。地元の方は、「埋め立てが始まったのは軟弱地盤がない場所。軟弱地盤の改良工事はいつ終わるかわからない」と話されていました。(写真は2025.11.29日付けのしんぶん「赤旗」から)

«目次»

【コスタリカの奇跡】自国を守るのは、民主主義と国際法……………	2 ページ
【沖縄】中城湾港抗議行動で触れた現地の思い(権藤八千代)……………	5 ページ
【北九州空港】軍事利用の日常化が進む北九州空港(藤堂均・大野保徳)…	6 ページ
【文書】防衛大臣に抗議文・北州市議会で口頭陳情……………	9 ページ
【連続エッセイ】「無関心」という「現実」(浦島悦子)……………	11 ページ

写真…小倉タイムス・大野保徳・藤堂均・宗吉信(敬称略)



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

映画「コスタリカの奇跡」に、会場いっぱいの参加者

映画が
教えてくれたこと
(言葉は感想文から)

自国を守るのは軍備ではなく 民主主義、そして国際法

11月8日(土)、当会主催の映画「コスタリカの奇跡」の上映会を、生涯学習総合センターで行いました。当日は会場いっぱいの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

※

世話人会では、事前の試写会など当日不備のないように準備をしました。ところが、上映が始まって、すぐみんなが立ち上がり始めました。前の人頭で、字幕が見えないです。もともと字幕が読みづらかったのですが、大きな会場では、さらに字幕は見えず、期待してくださった方々に、ご迷惑と失望を与えてしました。心からお詫び申し上げます。

※

その見づらい映画から、今の日本にとって大切な事柄を、感想文として残していただいたことに感謝するとともに、紙面の関係で一部ではありますが、内容を紹介します。

「コスタリカの奇跡」感想文(内容に関する部分を一部掲載)

『70代』…私はたとえ防衛・自衛のためであっても暴力を用いることには反対です。ガンジーやジーン・シャープの思想を学んでいます。コスタリカの実践は現実的な希望です。もう一度、きちんと見たい。何か書物はありませんか?

『70代』…軍隊が平和に必要ない事が判った。軍を強化するより、教育や福祉に予算をさくべきと強く思う。

『八幡西区・70代』…1948年に軍備廃止を決めたのは、その随分前からの民主主義的取り組みがあった事。その後も中南米の位置であり特に米国からの圧力に屈する事なく、単純に平和(中立)が守られ来た事が大事だと思った。世界が戦争という負の行為を止め、平和な美しい地球になっていけたらと思っています。コスタリカの今日を築いた指導者や国民に敬意と勇敢な生き様を賞さんします。

『小倉南区・70代』…自国をまもるのは軍備ではなく民主主義、そして国際法をまもることが基本だということがわかりました。国民のくらし、教育が100%実施されることが全ての国民が自國に誇りをもって生きる、堂々と明るく楽しく生きていくのではということも感じました。

『県外・60代』…コスタリカの努力の道、理想が語られること、子どもたちが大切にされる生活が先につながることも実感されました。法の大切さを真に知る人でなければ、おかしなことになることもあります。この映画を観て自分のまわりを改めて見ると、いろいろなものが透けて見えてくる気がします。日本が共有していくよう自分にできることを見つけていきたいと思いました。コスタリカが身近な国になっていくように。

『戸畠区・80代』…コスタリカの国民がよく民主的な政府を選んでいったことに敬意をもちました。

『市外・50代』…素晴らしい作品でした。現在の日本に対する深い示唆がありました。小国コスタリカは毅然とした態度でアメリカにも断固対峙しています。日本も見習うべき姿勢だと思いました。ありがとうございました。

『記載なし』…軍隊をなくすことができるということが本当にできるのかと思っていたが、実はシンプルな現実なのだということがわかります。

『八幡東区・60代』…国のトップの強い意志と国（国民）を思う心で平和になる。そして、その国民が正しいトップを選べる力は教育ではないでしょうか。軍事を福祉に、医療・教育にまわすことがすべてがうまくいくことがよくわかりました。

『記載なし』…リアルな現実主義をふまえたすばらしい理想主義。その根底にある人間（個人）のいのちと尊厳というようなことを思いながら観ました。これからコスタリカの平和主義の歴史を自分なりに学習していきたいと思います。同時に日本の日本国憲法を世界に広げなければならないと強く思いました。今日の映画企画に感謝します。

『60代』…「コスタリカの奇跡」、知らないことを教えていただきました。国際法を信じない日本がはずかしく感じたしだいです。

『80代』…アメリカの圧力を受けながら軍備を持たないコスタリカの人民はみごとでした。日本の憲法9条の先にあるものがコスタリカかな。作品中の「コスタリカは国際法で国を守っている」との言葉が印象的でした。まさに、映画名の示す如く、奇跡であると、確信します。素晴らしいです。

『記載なし』…きびしい道が続くと思いますがコスタリカの平和で社会福祉が継続することを願うものです。日本も少しでも見ならうことができたらと思います。

『市外・70代』…武器を持たず粘り強く対話すること、信じる力が平和をつくっていくのだと思いました。日本は平和憲法をもっているのに、こんな宝物があるのに大切にしていないと思いました。

『門司区・70代』…世界が不安定で大国に対し、国際的歯止めがなかなか巧くいかない昨今、この映画は私達の立ち位置を今一度気付かせてくれます。そして1人1人が現実を把握し、歩むこと、それが自國のみならず、世界の平和に寄与することを教えてもらい、勇気を持ちました。大変感謝しています。

『小倉北区・60代』…ずっと前から観たかった映画を観せて頂き有難うございました。非武装であることの難しさを痛いほど感じました。日本も、まず、非武装であることから始められたら…と切に思いました。非武装であるからこそ世界に訴えられるものがある。世界の中心で咲きほこるのは憲法九条であるはず…。

『市外・70代』…武力ではなく平和を対話で、国民の意思がすばらしい。コスタリカの人が今の日本、日本国憲法があつて戦争は絶対しないといい続けてきた、この日本の今を見てどんな感想をもつか聞いてみたい。きっと笑うでしょう。沢山の人にこの映画を観てほしいですね。軍隊ではなく、福祉ですね。



コスタリカってどこ？ ここです

「自衛隊は軍隊だ！ 帰れ！！」

中城湾港抗議行動で触れた現地の思い

会員 権藤八千代

10月15日(水)から22日(水)の間、辺野古埋め立て工事の抗議行動に行って来た。

16日(木)は塩川で、日差しの強い中ダンプの稼働を阻止するため、防衛局職員、警備員、機動隊が妨害する中、3か所で牛歩での抗議行動を行った。現場のテントでは、携帯を見るだけの防衛局職員と思われる集団がいた。地元の人からは警備費が1日2千万円との話があり、途方もない無駄遣いだと思った。

17日(金)の午前中は塩川で行動し、午後3時からはキャンプシュワブゲート前で座り込み阻止行動を行った。この日は、抗議人数が約10人と少なかったこともあり、15分程度で機動隊が登場し排除された。それでも通行する車やダンプに抗議プラカードを掲げたが、約150台のダンプが通過した。余談だが、ダンプの運転手に女性が増えているようだった。

*

今回の中で特に印象に残ったのが、中城湾港での「自衛隊統合演習」抗議行動だった。20日(月)朝7時半過ぎに、自衛隊員と車両12台を乗せたフェリー「はくおう」が接岸する中、「うるま市島ぐるみ会議」などの方々と32人で抗議集会を行った。その後、搬出ゲート前に移動し、ゲート越しに「自衛隊は帰れ」と連呼していると、待機していた機動隊が来た。そのため、横断幕を持って「むかで行動」をしようとするが、すぐに排除された。それでも、うちなーぐちでの「自分の身内はまだ3人遺骨が見つかっていない。自衛隊が来ると戦争が始まる。自衛隊は軍隊だ！帰れ！」の言葉は、説得力があり、心を強く打たれた。また、その言葉に、排除する機動隊員の中にも顔をくもらせる人もいた。

*

また、21日(火)は大雨の中、塩川で牛歩を行った。防衛局の職員に「大雨でも作業をするのか」と質問すると、「5ミリ以上だと中止する」とのこと、「もうそれ以上降っている」と言うと「午前はあと1台」と答えた。カッパは着ているが体が冷えて寒かった。お昼に現地の原田さんの手作りの炊き込みご飯をおいしく頂き、身も心もほつかほかになった。原田さん有り難うございました。

辺野古基地建設阻止に向けて、今後も戦争反対を訴えながら行動していくたい。(ごんどうやちよ)



中城湾港に「自衛隊統合演習」でやって来た「はくおう」。地元のみなさんと雨の中で抗議行動。

軍事訓練の法則(！？)「たま～に」「時々」「わりと」「毎日」に 軍事利用の日常化が進む北九州空港

世話人 藤堂 均・大野保徳

«10月も11月も、北九州空港で自衛隊が訓練»



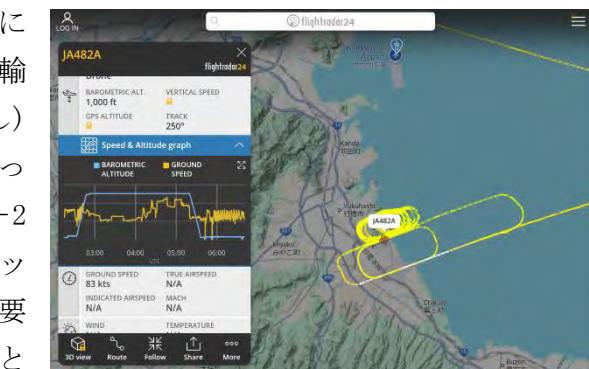
U-4型機

「自衛隊統合演習」が10月20～31日の間行われた。過去最大の参加人員であったという。これに先だって10月14日(火)に、2024年度から本格運用を開始したばかりの空中給油・輸送機KC-46Aが1機、北九州空港に飛来することが北九州市のホームページにある「北九州空港 訓練情報」に記されていた。訓練目的・内容は「航法訓練(北九州空港までの経路、管制官とのやり取り、慣熟訓練」とのことである。

統合演習中の10月22日(水)には航空自衛隊中部航空方面隊所属の指揮連絡、小型軽量貨物などの空輸、訓練支援などに使われる多用途支援機U-4型機1機が飛来。

*

統合演習から一ヶ月後、11月25日(火)に空自小牧基地第1輸送航空隊の空中給油・輸送機(KC-130H)1機(駐機のみ訓練活動なし)の飛来が予定されていた。これは中止になつたが、翌26日(水)午後には築城基地のF-2戦闘機2機と、T-4中等練習機1機がタッチアンドゴー。築城基地では、「今後も必要に応じて北九州空港を使用し訓練を行う」という。統合演習のあるなしにかかわらず、自衛隊機が飛来しているのである。



築城基地でタッチアンドゴーをしている、シーガーディアンの航跡(FlightRadar24より)

*

一方、北九州空港にある、海上保安庁北九州航空基地所属の無人航空機「シーガーディアン」が11月21日、航空自衛隊築城基地でタッチアンドゴーをしている。

北九州空港が使えなくなった時のための完熟訓練か? 有人機であれば、搭乗するパイロットの判断で、各々の機体が離発着場所を変えて運用することも可能であるが、無人

機は、北九州空港内にあるオペレーションセンターに非常事態が起これば、飛行中の全ての機体のコントロールができなくなる。鳩の帰巣本能のように、自動的に基地に帰還するようなプログラムが仕込まれているのか、帰着先が北九州空港ではなく築城基地なのかもしれない。いずれにせよ、自衛隊との連携は、偵察などの軍事利用も担っていることを推測させる。

*

シーガーディアンについては 11 月 23 日、着陸する際プロペラと Y 字型の尾翼のうち、下向きのものが滑走路に接触。滑走路が 40 分間閉鎖されて、民間機 2 便に遅れがでるという事故を起こし、航空事故につながりかねない「重大インシデント」に認定されている。操縦ミスなのか、シーガーディアン自体の欠陥なのか、運輸安全委員会の調査報告に注目していきたい。

なお、損傷した機体とは別に保有する 2 機体を当面の間、「安全に運用できると判断するまで」運用停止することである。(とうどうひとし)



無人航空機「シーガーディアン」。全長は 12m 弱

《埼玉県の入間基地からも訓練の自衛隊機が》



10月22日(水)11時15分頃に、北九州空港に着陸した航空自衛隊の U-4 多用途支援機。

過去最大規模の兵士を動員した自衛隊統合演習が、10月 20 日～31 日の間、全国各地で行われた。その最中の 10 月 22 日、北九州空港には航空自衛隊の U-4 型機(多用途支援機)1 機が飛來した。

この日から急に寒くなつた南展望デッキで待つこと 45 分、11 時 15 分頃に小型ジェット機が南から滑走路に着陸し、海上保安庁北九

州航空基地前に駐機した。

3名の隊員が、機体下部を点検後、6名の員が降りて視界から消えた。後は予定があり、11時30分南展望デッキを後にした。

U-4型機は1995年から順次5機が導入され、埼玉県の中部航空方面隊入間基地に所属している。その入間基地から飛来したものと思われる。中部航空方面隊のHPによると「指揮連絡、小型貨物輸送、訓練支援など多彩なシーンで活躍」とある。

前日の21日には、九州自動車の大宰府インターに入ったところで、16式機動戦闘車2台に追っかけられ、各地で自衛隊が活発に動き回っていることを実感した。(おおのやすのり)



↑ドアミラー

大宰府インターから九州自動車道に入つて直ぐ、ルームミラーを観て驚いた。後に戦闘車と思われる車があり、かなりのスピードで疾走していた。

「戦争するな!戦争の準備もするな! 11.3 北九州集会」開かれる



日本国憲法が公布された11月3日の「文化の日」に、小倉北区の勝山公園で、「戦争するな!戦争の準備もするな! 11.3 北九州集会」が開催されました。高市早苗首相は「2026年末までの安保3文書改定」を表明するなど、益々急速な軍拡へ向かっています。(写真:小倉タイムス提供)

※当会では、10月6日に防衛大臣に抗議文を送信。11月19日には、北九州市議会(委員会)で「北九州空港の特定利用空港選定撤回を国に求める」口頭陳情を行いましたので、その文書を次ページに記載します。



防衛大臣 中谷 元様

正当な権利行使である抗議行動に対し 「過度な抗議活動、また、妨害行為」と発言したことについて

あなたは9月19日の閣議後会見において、冒頭「最近、沖縄における自衛隊の活動に対する過度な抗議活動、また、妨害行為が続いている」と述べた。この会見内において具体的な事案として、

1. 9月13日に宮古島で物資輸送訓練に対する妨害行為があり、訓練の内容を一部変更。妨害行為により、訓練の内容の変更を余儀なくされたことは大変遺憾。

2. 8月5日の夕方から6日の早朝にかけて宮古島で陸上自衛隊の徒歩防災訓練が行われた中で、ある団体から拡声器を用いた抗議活動を受けた。

3. 9月12日に開催された沖縄市でのエイサーまつりに陸上自衛隊の第15旅団の隊員が参加するに当たり、一部の団体から自衛隊員の参加を自粛するように要請があった。

と、3点が示された。

いずれも沖縄県下における事象である。沖縄県は先の大戦において県民の4人に1人が命を落としている。そのうち少なからぬ人々が日本軍によって殺され、集団自決を迫られ、あるいは待避していたガマ（自然洞窟）から追い出されて鉄の暴風といわれた激しい砲爆撃にさらされ命を落とした。沖縄県は戦後長く米軍の占領下に置かれた。「本土復帰」したとはいえ現在も国土面積の約0.6%にすぎない県土に、日本国内の米軍専用施設面積の約70%を背負わされている。加えて、「台湾有事」をあおり立てて自衛隊の基地を県下に繰々と設置し、日米共同訓練は年ごとに規模を拡大している。沖縄の歴史を顧みれば再び戦場になるのではないかとの恐れから反対運動・抗議行動を行うのは当然のことである。これらの運動は常に非暴力で行われており、「過度な抗議活動、また、妨害行為」にはあたらぬ。むしろ、県民の平穏な生活の妨害をしているのは防衛省・自衛隊である。

9月13日の宮古島における物資輸送訓練が「妨害行為」によって訓練の内容の変更を余儀なくされたというが、「妨害」によって変更を余儀なくされたのではない。8月6日早朝に起こった宮古島駐屯地司令による恫喝事件を正当化することを目的に、抗議活動をする人達がいかにも「過度な抗議活動、また、妨害行為」を行っているかのようなイメージを広める為に、あえて訓練の続行をせず、そそくさと立ち去ったのである。あくまでも妨害行為により訓練の内容の変更を余儀なくされたというならば、今後同形態で同程度の人数もしくはそれ以上の人数による反対運動に遭遇した場合、今回と同様に訓練の続行を一切しないことによってそれが真実であることを証明すべきである。

宮古島における恫喝事件は、市民の運動に対し過剰に反応した駐屯地司令による過度な抗議行動であり、また、市民の表現活動に対する妨害行為である。しかも駐屯地司令は、使用許可の必要のない場所であるにもかかわらず、自らは許可を取っていると虚偽の発言をした上で、「許可をとったのか?」「許可を取り!」「許可をとってこい!」と威迫している。政府が最前線と見立てて軍備の増強を進めている地の駐屯地に、このように自制心の欠如した行為をする者を司令として配属している人事に驚かざるを得ない。また、国家公務員法の信用失墜行為にあたる行為をなした自衛官に対し懲戒を与えず、むしろあなたが身内を庇うために、市民の運動を貶める発言をしていることに私たちは激しく怒りを覚える。

また、エイサーまつりへの自衛隊員の参加に対する自粛要請については、エイサーは先祖供養の行事であり、融和・懷柔や広報の下心を持ってエイサーまつりへ参加しようとするとは祖靈に対する冒涜であって自衛隊への自粛要請は当然である。まして供養される祖靈には、上記したように旧日本軍によって死に至らしめられた人々も含まれているのである。

私たちは「過度な抗議活動、また、妨害行為」との発言を撤回し、沖縄県民に対し謝罪するよう求めるものである。

2025.11.19 «北九州市議会・環境水道防災委員会»で口頭陳情

«北九州空港の特定利用空港選定撤回と自衛隊の飛行訓練中止を国に求める陳情»

【陳情項目】1. 北九州空港の特定利用空港選定撤回を国に求ること。

2. 北九州空港で自衛隊の飛行訓練を行わないよう国に求ること。

北九州空港は、昨年4月1日に特定利用空港に選定されました。ご存じのように、特定利用空港・港湾は、戦争で自衛隊の基地が攻撃を受けて使えなくなった場合の代替施設として、民間の空港や港湾を、自衛隊が使い勝手がいいように整備・強化しなおし、日頃から訓練を行う…という施設です。

配布の資料をご覧ください。この資料は、北九州空港が「特定利用空港」に選定された直後の昨年4月7日、当会が北九州市宛に送った質問に対する回答です。

質問事項は6つですが、全ての根底にあるのは、「北九州空港は国が管理する空港なので、北九州市はものを言う立場はない」というものです。確かに、北九州空港は国が管理していますが、周辺では多くの市民が日常生活を送っています。

また、選定に先立ち、政府が23年11月28日に北九州市に説明に来ていますが、武内市長は、その内容をHPにもあげず、市会議員のみなさんにも諮らずに、合意の意思表示をしたものと思われます。その結果が24年4月1日の北九州空港の選定です。

さて、特定利用空港になった北九州空港では、昨年10月の日米共同訓練で、北九州空港で初めて、米軍岩国基地所属の対潜哨戒機に自衛隊員が給油を行うという、軍事訓練が行われました。今年6月には、築城基地所属の戦闘機2機が、タッチアンドゴーの訓練を行いました。10月22日には、埼玉県の入間(いるま)基地所属の自衛隊機が、北九州空港に馴れるための訓練を行っています。

北九州空港の滑走路が3000mになれば、米軍のどんな飛行機も北九州空港に飛んでくることが出来ます。いずれ、九州で唯一の24時間使える「北九州空港」に、夜間訓練をする戦闘機のタッチアンドゴーの爆音が響く日が、やって来るのではないかでしょうか。

一方、北九州空港の3000m化は、欧米の主要都市への貨物直行便の運航を可能とするなど、北九州のみならず、周辺地域での経済発展に大きく寄与するものとして、市会議員のみなさんも、ご尽力されたことと思います。しかし、北九州空港の軍事化と、北九州空港の滑走路延長による経済の発展は、相いれないのではないのでしょうか。

特定利用空港や港湾に選定された他の自治体では、経過や状況をHPで公表していますが、北九州市は情報を公開していません。

また、市長は定例記者会見で、日米共同訓練の「日程や内容を教えてほしい」と言う記者の質問に、「把握していないし報告も受けていない」と答えています。このような姿勢は、市民の命を守る責任がある市長として、あまりにも無責任ではないでしょうか。

今年6月、政府は九州・沖縄での自衛隊機の低空飛行訓練の場所を公表しましたが、北九州の小倉駐屯地・富野弾薬庫・曾根訓練場の上空も含まれ、オスプレイも今後これらの地域において低空飛行訓練をする可能性があるとしています。

私たちは、北九州市民の命を危険にさらす「北九州空港の特定利用空港選定の撤回」と、「北九州空港での自衛隊の飛行訓練中止」を国に求めていただくことを市会議員のみなさんにお願いし、口頭陳情を終わります。

「無関心」という「現実」

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



11月10日夜、名護市役所久志支所ホールで、名護市議会主催の市民意見交換会が行われた（1970年に1町4村が合併して誕生した名護市は、市域が広いため、かつての村役場が市役所の支所として末端業務を担っている）。市民意見交換会は毎年1回、与野党全市議（2つの支所で同時開催のため各半数）が参加して議会報告を行い、市民・住民の意見を聞くもの。久志支所の参加対象者は旧久志村（東海岸13区）住民で、私もほぼ毎年参加している。

市議代表による議会報告のあと、これまで会場参加者が挙手して質問や意見を述べ、議員が答える形だったが、それだと区長など、いわば「声の大きな人」に限られてしまう。今回から、より多くの住民が自由に意見を出せるようにとラウンドテーブル式が取り入れられた。

各テーブルの進行役は議員が担当し、参加者1人ひとりが、地域の課題や暮らしの中で感じていることを述べていく。人口減少、耕作放棄地、交通問題（公共交通機関がほとんどない）、住宅問題（公営住宅が足りない等）、子どもたちの教育環境、自然を活かした地域振興など、過疎地ならではのさまざまな問題や課題が出され、共感するものも多かったが、30年近

く前からこの地域を翻弄してきた新基地建設問題に、誰も、一言も触れないのが奇妙で仕方なかった。当初、住民がこぞって反対運動に立ち上がり、NOの意思表示を続けたにもかかわらず、それを踏みにじって強行され、「アメとムチ」で地域は分断されてきたのだ。

私は事前に、H議員（地元の新基地反対住民運動の中から私たちが押し出し、現在5期目を務める）から「基地問題を発言する人は少ないとと思うから、是非提起してほしい」と言われていたこともあり、思い切って、地域振興を目指すなら、まずはその妨げとなっている基地問題をなくさなければならないと思う、と言った。途端にテーブル全体がシラーツとした雰囲気になった。まるで「場違い」だと言わんばかりに。

参加者の中には若い人や最近の移住者もいて、基地問題の歴史を知らないとはいえ、今現在、自分たちの目の前で工事が毎日行われているのに、何も思わない、感じないのだろうか…？

ラウンドテーブルという方式は良かったと思う。だから余計に、問題などないかのような「無関心」という現実を突き付けられたショックで、私はその夜なかなか眠れなかった。（うらしまえつこ）

«辺野古土砂北九州・今後の予定»

- 12月03日(水)…«北九州市議会に陳情提出»13時～ 北九州市議会棟
- 12月03日(水)…«会報発送作業»14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月24日(水)…«世話人会»14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 12月26日(金)…«小倉駅前街頭宣伝»16:00～
- 01月07日(水)…«会報発送作業»14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 01月28日(水)…«世話人会»14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室

※佐賀駐屯地のオスプレイが、12月15日以降九州各地の自衛隊施設周辺で、夜間の飛行訓練を実施予定であることが報道されました。築城基地や芦屋基地もその対象に入っています。



※前年度までの会費が未納の方に、振込用紙を同封しています。よろしくお願いします。

「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000円・団体 3000円)です。

カンパ熱烈大歓迎!

【辺野古土砂北九州の口座は】ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】

090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。



«辺野古土砂ストップ北九州»

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2025年12月3日発行